

【多賀城市】
校務D X計画

1 市の現状と課題

令和 5 年度に実施された「校務D Xチェックリスト自己点検」及び令和 6 年度に実施されたフォローアップにおいて、多賀城市の得点は宮城県全域の平均得点を若干下回る結果となりました。

（多賀城市平均 379.8 点、宮城県平均 381.3 点）

県平均以下ではあるものの「職員会議等の資料のペーパーレス化」や「教職員間の情報共有や連絡へのクラウドサービス取り入れ」については、9 割以上の学校が半分以上対応できていると回答しており、学校現場では校内の業務に対してD Xを意識した取り組みが進んでいることがうかがえました。

一方で、「日常の業務にFAXを使用していますか。」の問いに対しては9割以上が使用していると回答している他、「保護者からの問い合わせ対応」や「学校への書類提出受付」についても9割以上がクラウドサービスを使用できていないと回答していることから、外部向けの業務についてのD X化に難を感じていることがうかがえました。

また「業務で押印が必要な書類はありますか。」の問いに対しては全校が「ある」と回答しており、従来業務のD X化についてはまだまだ取り組めていない状況であることが分かりました。

2 「校務D Xチェックリスト自己点検結果」における課題及び対策について

(1) F A X・押印の原則廃止への取組

9 割の学校が日常の業務にF A Xを使用しているという結果となったことを受け、今後は各学校にてF A Xの利用用途を確認し、メールやクラウドシステムに移行できないか検討を進めてまいります。

また、現行押印が必要であるとされている書類について、各様式の規則や押印の必要性について検証してまいります。

(2) クラウド環境を活用した校務D Xの推進

保護者者からの問い合わせ対応や書類提出について、9 割の学校が対応できていない結果となったことを受け、学校で使用している保護者連絡ツールの見直しやI C T支援員による他自治体の事例紹介・研修等により現行の提出書類データ化の転換などを研究してまいります。

(3) 次世代校務システムの導入に向けた検討

校内の業務についても、現行単独で運用している機能（保健、出退勤、出欠確認等）を洗い出し、校務支援システムの次期更新に合わせて学習系システムと連携を行うなど不必要な手入力作業を廃止し効率的な運用が行えるよう導入仕様を検討します。